

## インターバンクの声（2017年5月2日）

先週の後半以降に発表されている米経済指標が総じて軟調になっているのが気になる。先週木曜日は3月の耐久財受注が市場予想を大きく下回り、金曜日には1-3月期の国内総生産(GDP)速報値も前期の伸びから急減速している。

そして昨日も米供給管理協会(ISM)の4月の製造業景況指数が市場予想よりも大幅に低下、特に雇用の項目が昨年10月以来の低水準まで下がった。

ISM製造業景況指数よりも少し前に発表されていた3月の個人消費支出も2%を超えていた前月の伸びから鈍化している。コアベースの物価指数については2001年以來のマイナスだった。市場もマイナス予想だったので衝撃が大きくなりすぎずに済んだが、プラス予想だったら反応が大きくなっていたはずだ。

それでも相場が大崩れしていないのは、米議会が予算案で合意したことや、米主要企業の決算が堅調となっていることが背景にありそうだ。

市場の専門家は、低調な経済指標も一時的な現象と捉えている方も多い。個人的にはどうしても週末に発表される米雇用統計の結果が気になる。

---

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。